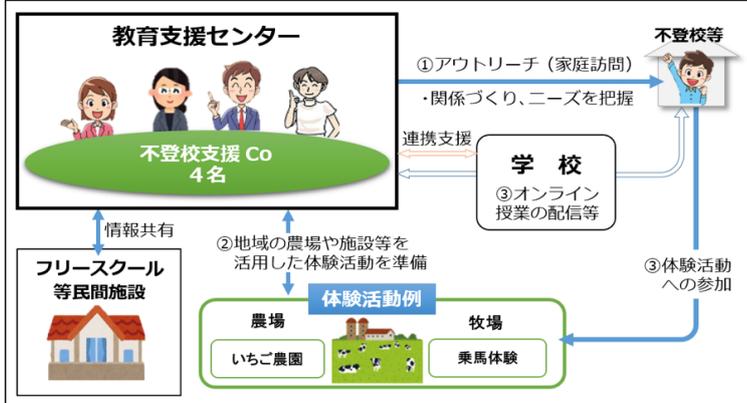


令和4年度不登校児童生徒に対する学びの継続支援事業 中間報告【概要】

心の支援課・次世代サポート課

1 小諸市

※R3の仕組みづくり



【R4仕組みづくり 進展】

- 興味関心に広くこたえられるよう、
様々な体験活動を開拓し、活動実施
 - 野菜・いちご栽培、乗馬体験、料理教室、陶芸、手芸、ニュースポーツ、歴史探索など
- フリースクールとの連携拡大
 - 情報共有施設が3か所に増

<成果>

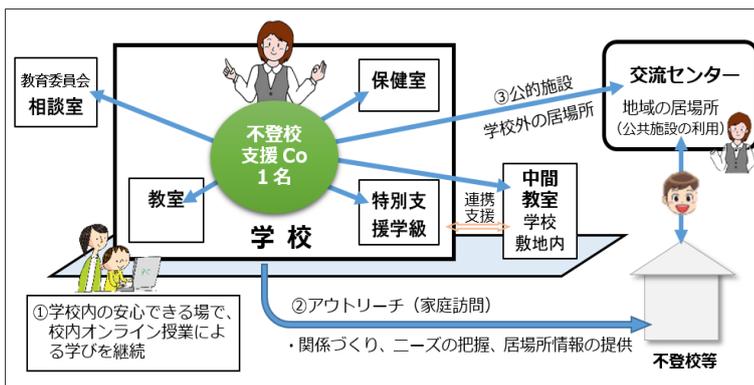
- ・集団での活動の機会が増えるにつれ、自信をつけてきた子どもたち。活動において自分たちで活動を進めようという雰囲気ができており、社会的自立が期待できる。
- ・フリースクール訪問を通し情報共有とともに、センターでの支援についても参考とすることができた。

<課題>

- ・体験活動を受け入れていただく事業所には教育長から感謝状を贈呈させていただいたが、持続可能な活動とするためにも、今後、講師謝礼や体験活動の材料費などの経費の負担の範囲の検討も必要。

2 千曲市

※R3の仕組みづくり



【R4仕組みづくり 進展】

- 不登校支援コーディネーターが、**早期支援の視点でのアウトリーチを実施**
 - 小学校からの引継ぎをもとに、不登校が長期化する前に、本人支援へ。

<成果>

- ・小学校で不登校傾向だった生徒に対し、入学後すぐに保護者と早期に関係作りを図ることで、中学校入学後のスムーズな支援につなげた。本人とは対面でなくても、メッセージのやり取りで信頼関係の構築につなげた。
- ・生徒が取り組んでいるプリントへ評価の言葉がけを継続して行っていくことで、学習への自信も付き、「次は〇〇をやってみたい」等学習意欲の高まりにつながっている。

<課題>

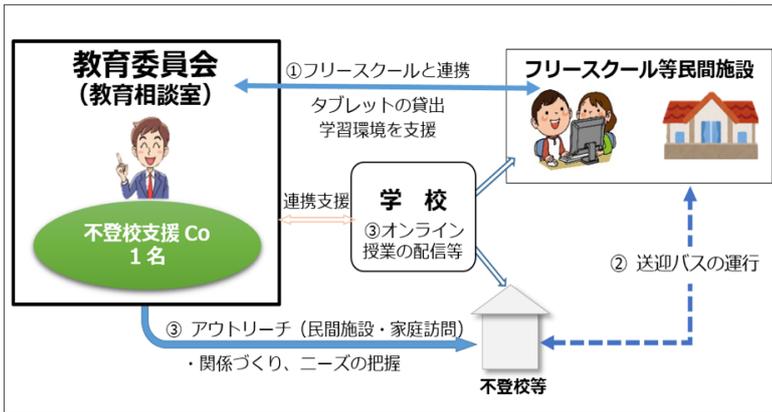
- ・本年度新たな職員が不登校支援 Co となり、関係作りを進めるには時間がかかるため支援時間が不足。Co による関係作りを基盤とした支援の仕組みに加え、関係者間の連携がさらに必要。

3 松川町

※R3の仕組みづくり



【R4仕組みづくり 進展】



○不登校支援コーディネーターがフリースクールのスタッフ会議に定期的に参加

➤ 学習支援等の訪問に加え、スタッフ会議に参加し、通室児童生徒の支援ニーズを素早くキャッチ

<成果>

- ・定期的にスタッフ会議に参加することで、通室児童生徒の支援ニーズを素早くキャッチし、学習備品の貸出し、町施設の利用や定期テスト実施場所等の検討など、フリースクールと行政や学校とをつなぐ役割が可能となった、
- ・不登校支援 Co はフリースクールでの個々の学習状況を学校と情報連携し、学校が評価等に反映できるようにしている。

<課題>

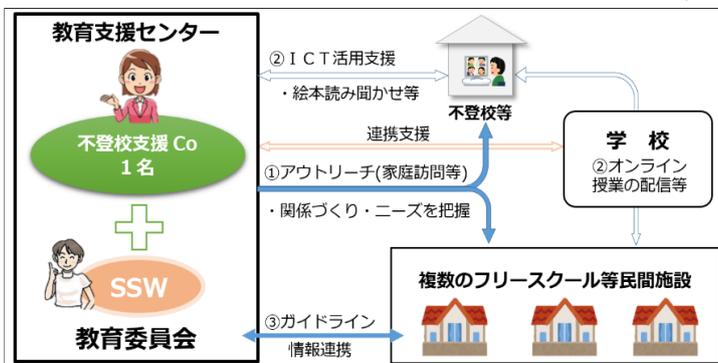
- ・マンパワーが限られるため、不登校支援 Co と不登校児童生徒、保護者と新たにつながるまでには時間がかかる。

4 安曇野市

※R3の仕組みづくり



【R4仕組みづくり 進展】



○教育支援センターを中核にした支援の機能拡充

➤アウトリーチ支援をした子供が参加する体験活動の実施（散策、工場見学、畑仕事、寄席見学）

➤不登校児童生徒自宅とオンラインでつなぐオンライン支援の実施

<成果>

- ・教育支援センターを居場所と感じる子どもが増加。
- ・不登校支援コーディネーターと関係づくりが進んだ子どもに対して、教育支援センターでの本人が希望するスタイルでの参加を声掛け。教育支援センター指導員等が体験活動をコーディネートし、個々のニーズに合わせた体験活動の実施が可能に。
- ・教育支援センターと不登校児童生徒自宅を一人一台端末でつなぎ、アプリ等でのかかわりを継続して行うなど、個別のニーズへ対応した支援が継続してできてきている。保護者の不安軽減につながっている。

<課題>

- ・支援ケースが増えてきており、支援者が孤立しないよう関係機関によるさらに連携した取組が必要である。